

## 第1回新城市市制施行20周年記念式典検討委員会 会議報告

日時 令和6年5月1日(水)午後5時30分～7時

場所 政策会議室

### 1 選任通知書交付

A委員が代表で受け取り

### 2 市長あいさつ

令和7年10月に市制20周年を迎える。式典を盛り上げるためのアトラクションや企画、キャッチフレーズやロゴマークのご検討をお願いしたい。

職員も一丸となり市制20周年を盛り上げていく。そのためには今からしっかり準備をする必要があるため、委員の皆様から様々な角度からご意見をいただき、市民のためとなる式典となるようご協力をお願いしたい。

### 3 委員の紹介

名簿順に自己紹介

### 4 委員長互選

### 5 委員長あいさつ

色々なバックボーンを持たれている方々が集まっているので、それぞれの意見や考え方を反映させながら議論が出来ればと思っている。

### 6 議題

議題に入る前に、式典の開催日について委員の意見を伺う

(令和7年10月開催を考えていたが、選挙の時期と近いため、時期をずらして令和8年2月の開催はどうか)

(G委員) 2月は寒い時期。市長選はあまり関係ないのでは。10月でもよい。

(F委員) 10月1日に新城市が誕生したので、10月初めにやった方がよい。

選挙の時期で行政側が大変だということであれば別だが。

(E委員) 10月に新城が誕生したのでそこで盛り上げた方がよい。

(D委員) 10月は気候が良い。新城はお祭りも盛んだし、子どもたちも10月は行事があり多忙ではある。そうすると2月だが、2月だと感染症が気になる。

(C委員) 新しい市長の話を聴きたいため、当初は2月が良いと思っていた。ただ子どもがキーフレーズになり出演するとなると2月は難しいので10月。

(B委員) 市制20周年であれば単純に10月。職員の方は選挙も重なり膨大に忙しいとは思いますが。

(A委員) 20周年の節目であれば10月。2月は子どもの参加が難しくなる。  
参加予定の子が出られなくなる可能性が出てくる。

## 20周年記念事業のテーマについて

### 委員からの意見・質問

(A委員) 記念式典以外に各課が色んな事業を行うから、その共通のテーマを決める  
ということか。

(事務局) 「こども」をテーマに、それを取り入れる事業については市制20周年記念  
事業という冠を付けて、「こども」を基に市民や市の職員に一体感を持たせたい  
と考えている。

(事務局) 令和7年度に行われる「記念式典」と「年間通じた各種事業」は、市民や職  
員に20周年の一体感を持ってもらうために、「こども」をテーマにキャッチ  
フレーズを考えてもらい、事業名に冠として付ける。子どもに参加してもら  
えるように担当課が考えていくということ。

(F委員) 市民まちづくり集会のテーマとして20周年記念式典のことを市民の皆さ  
んに考えてもらおうという検討はされたのか。ロゴマークやキャッチフレー  
ズの選考等、まちづくり集会でやった方がみんなで作り上げていくというイ  
メージになるかなど。

(事務局) 検討はしていなかったが、そういったことも出来る。

(F委員) もちろん検討委員会として責任もってやっていくが、これだけの少人数の  
中で決めていいのかな。数点に絞ったものをまちづくり集会で、大勢の市民  
の中から選んでもらうのも一つの手段かなと思った。

(事務局) 透明性が大事になってくる。この委員会で決めるにしても、必ず市民の皆  
さんに、この委員会でこんなことを検討して決めたというのを公表しながら  
やっていく必要があると思っている。

(委員長) この検討委員会の概要としては、式典のテーマやアトラクションの内容を  
決定していくものと認識している。委員会の構成も、市民を代表する者、学  
識経験のある者と幅広い構成になっているのでこうした会ができ、今後も数  
を重ねて決定していくと認識している。その前提が覆るのであれば話す内容  
が変わってくると思うが、その前提はどうなのか。

(事務局) 決めていくための委員会だと思っているので、事務局としてはこの委員  
会で決めていただきたい。

(委員長) まち集ではなく、ここで決定していくという事でいいですね。

(F委員) そういう事であれば大丈夫。ただ、先ほど部長が市民にしっかり説明をし  
ていくと仰ったので、まちづくり集会で「こんなことをしています」とうこ  
とを説明していく事もできる。何らかの形で市民に見てもらえる。

市民意見は必要だと思う。皆さんがそれぞれの立場で、話ができる方から  
いろんな意見を頂くことをしないと。このメンバーだけの意見で決めるのは  
いかかと思う。統一見解をしたうえで進めていった方がいいと思った。

20周年記念のテーマと言われても、第1回で案を出すことはできない。

皆さん一度持ち帰ってじっくり考えて提出していただき、出たものを皆で共有した上で、次回検討した方がいいのでは。

(A委員) なぜそのテーマになったかという議論がない。「こども」をテーマにするのなら何故「こども」をテーマにするのか共通の理解がないと。新城の子どもたちが市外へ出ても帰ってきてもらいたいのか、郷土愛を育ててもらいたいのか、夢や希望を持ってほしいのか。決め方について皆さんいかがですか。

(D委員) ビジョンの共有があって、そこに言葉のセンスが乗っかってくると思う。せつかく色々な立場の方がみえるので、言葉から攻めるのではなく、共有のビジョンを持つことを先にやれるといい。

(委員長) この場の時間を有効に使うためにも、それぞれの思っている「こども」の考え方を交わさせていただき、持ち帰ってから考えていただきたいと思う。

「こども」に関して思うところはあるか。

(D委員) 家に帰ると三世代で生活している。こどもが居ることで大人が生き生きする。そういう繋がりが生まれるところが良い。こども未来課が「こどもまんなか」というキャッチフレーズで進めているが、そういうことか!と思う。子どもだけでなく、幅広い世代が子どもを真ん中に笑顔になっていくのがいいのかなと思う。

(A委員) なぜ子どもの数が減っていくのか。そうなる前に、まず一つ。子どもには自分の住む新城（ふるさと、郷土）がこんなに良いところなんだという事を味わって誇りに思ってもらいたい。遠く離れても心の拠り所にしてもらえるような子どもになって欲しい。それが20周年を機に広がるといいと思うし、今の子ども達がいずれ新城に戻ってきてくれるような事を考えてやって欲しいと思う。

(委員長) 自分も子どもが二人おり、三世代で住んでいる。自分の世代だと、新城で子供を生んでいいものかというネガティブな考え方をしている人もいる。自分としては、新城で生まれ育った子が生き生きと楽しい未来になっていくということを発信して欲しいと思う。ネガティブな発言に対して響くようなメッセージになるといい。

(E委員) どこまでが子どもなのか。若者は別？子どもも一人の人間として意見を持っていると思うから、子どもにも意見を求めることができたらいいなと思う。学校ではなく市がやっている事業に参加できると新城市と子どもの心が繋がるのではないか。

(B委員) 就職する若者がいないと聞く。特に高卒がいないと。昨年度、有教館高校の2年生、1年生に新城市と奥三河の企業を集めて地元企業の説明会を行った。40人集まればいいと思っていたが、120人も来た。それだけ地元のことに飢えている、情報を知らないことに驚いた。新城にもこんなに良いところがあるという再発見してもらえると良いと思う。

親は有名な企業に入りたいのだと思う。でも子どもはそうじゃないかもしれない。大学を卒業した後に、高校生の時に話を聞いたあの企業で働いてみたいというのがこれから出てくるのではないかと思う。

(G委員) 子どもにフォーカスを当てるのも大事だと思うが、親世代にも伝えていけるといいと思う。子どもたちと私たち全員、新城のいいところを再発見させていただくことをアピールできるといい。子どもを通して郷土の良さや新たな発見が出来るといいと思う。

(F委員) 今の皆さんの話を共有して、20周年を考えようというのは良いと思う。やはり子どもが中心にいと明るい社会ができる気がする。子どもが新城を愛してくれて新城に帰ってきて欲しいというのは皆さん共通の認識だと分かった。

(委員長) こどもを中心にして、そこから地域や大人たちの繋がり、郷土を知ること、子どもにも主体性を持って取り組んでもらえると周囲との関係性も変わってくるのではないかといいことが一言で纏められるといい。こうした方向性を持ち帰って、「こども」をテーマにしたフレーズを皆さん考えていただきたいと思う。

(事務局) 一度事務局へ回答していただき、送られたものを共有し、次回会議に望みたいと思う。

#### 式典のアトラクション等について

##### 委員からの意見・質問

(E委員) 人を集めることを目的としているのか

(事務局) 大ホールを予定しているので、人が集まればと考えている。

式典の第2部でアトラクションを考えているし、式典の最初の部分でやる事も考えられる。

(A委員) せっかくの機会なので市内で活動している団体の活躍の場にしても良いのでは。

マヂカルラブリーの村上さんが観光大使になったが、お笑い系の人を呼ぶのも面白い。よしもとの自治の関係で、1年くらい前から応募すると、地元の人も入れて新喜劇ができる。お金は無料。参加型なのでそういうのも面白いのではないかと思う。

(委員長) A委員の仰った新喜劇は子どもも出るので人が集まりやすく参加型のアイデアとして良いと思う。

(E委員) 3つの候補以外にも新城で活躍している方はいっぱいいると思うので、そういう方たちも見れたらと思う。

(委員長) マヂカルラブリー村上さんはじめ、新城に所縁のある方という考え方もいいですね。

(F委員) アトラクションは30分程度と言っていたが。時間的な部分はどうか。

(事務局) 来賓を呼ぶことを考えると10時スタート。式典後の第2部なので30分ぐらいになってしまうと思う。

(委員長) ちなみに30分でなくても良ければ、どういったものを考えているか。

(F委員) さっき言われたよしもとの新喜劇は、30分では難しい。30分で何が出来るかを考えた方が無駄がない。

(委員長) 吹奏楽をやるなら、既存とは違う特別な組織になるのかな。普段できないことが20周年で出来るという捉え方が出来る。

歴史に関することを扱うということはどうか。

(E委員) 東郷中は兜とか被ったりしている。

(事務局) 子ども達が夏休みまでに甲冑を作って、設楽原の決戦場まつりで着ていたが、教育時間の関係で廃止になり、過去に作られたものを着てやっていた。

(A委員) 今ではやっていない。職員も変わると教えられない。

(委員長) それを復活のきっかけにするというのもいいと思う。先ほどの郷土を知るという意味では良い教育だったはずだけど途絶えてしまったので。

(A委員) ただ、学校でやるというのは難しいと思う。

(委員長) これらのことを踏まえて、子どもを中心に参加型でいくとなると、先ほどのよしもとの新喜劇がある。音楽でも、一緒に集まって実施することもできる。歴史に関しても途絶えてしまったものを復活させるというものもある。また、地元と馴染みのある方を呼んでくることもアトラクションとしてある。どこかで現実的な確認作業が必要になると思う。

今の内容の総意でいくと、子どもが参加するというのが一つ。参加のやり方やテーマは色んなやり方があるが、それを実行できるかどうか。

こども×歴史、こども×音楽、こども×よしもと等実現できるのか調査していただく。そうしたら次は絞った内容で話を進めやすいのではないか。

(事務局) まずは事務局で実現できるかどうか調査する。

(A委員) これから式典をやっていく中で、実行委員会のようなものを組織して募集してやっていくのか、限られた人数だけでやるのか決まっているか。

(事務局) 実行委員会を作る予定はない。

(A委員) 例えばこども参加型となったら、スタッフは誰がやる。

(事務局) 色々な学校の中から集めて何かやる事は非常に大変。それをやる人材がない。そうすると無理。既存の団体があるならそれが一番良い。子ども達の参加が一番良いことだが、子どもを集めて練習してということは非常に厳しいものがある。

(委員長) それぞれの×の理由まで分かれば、×に対して委員から代替案が出るかもしれないので、事務局の方へ調査をお願いしたい。

概ね意見交換ができたのではないか。

(事務局) テーマについては、メールアドレスをお伺いするので、メールで意見をいただき、事務局で集計したのち皆さんへ共有し、次回の検討材料にする。

アトラクションについては、調べるのに時間がかかると思うので、共有できなければ次回の会議でのお示しになるかもしれない。

## 7 次回開催日時について

5月22日(水) 午後5時30分～ 4-1会議室